

横芝の碑 (その十三)

総理大臣揮毫の碑

若槻禮次郎揮毫の耕地整理竣工記念碑が鳥喰下に建っているというのを耳にしました。若槻禮次郎といえば大正から昭和にかけて憲政令領袖、民主党総裁、大蔵、内務、総理など各大臣を歴任した大政治家の揮毫だというのですから「そんな立派な人の碑は見たことがない、碑探訪等といえた柄ではない。」と自分の迂闊さを訓めながら、長い間土地改良事業の役

員として勤務され、また旧横芝町議会議長であった齋藤勲氏が鳥喰下にお住いなので、そのお宅を訪問しました。

「若槻さん揮毫の碑ですか、すぐそこです。栗山から来ると前を通る筈ですよ、高さは二メートル位のものでしよう。案内しましょう。」と気軽に立ち上って案内しながら鳥喰下の集落の南側を通って上

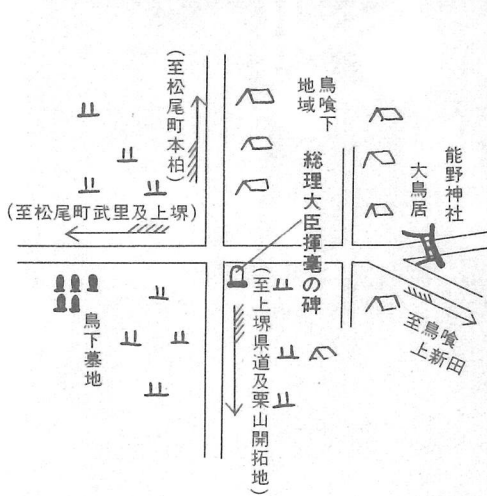
界県道に通ずる道路と、鳥喰上方面から松尾町武ノ里に通ずる道路が交差する田圃中の一角に、台石が隠れる程の雑草に囲まれてひっそりと建っているのがその碑でした。

碑は極めて簡素で、寺院や神社で見かける善光寺詣でやお伊勢参りの記念碑ぐらいで表には耕地整理記念碑、正四位勲一等、若槻禮次郎書と肉太の豪快な文字が刻まれ、その背面には、関係功労者として千葉県職員、宮崎信太郎、関口熊太郎、長谷川正一、佐久間弥三郎、吉岡清助、本間重吉の各氏組合役職員、加藤輝夫、宇都木信三、鈴木二平の各氏。

地元役職員、市原宗一郎、同伊之助、同岩松、同松太郎、同計衛、同清、同貞助、同仲藏、同暹、押尾真澄、同岩吉、同精三郎、同惣藏、同喜

三郎、同末三郎、同栄助、同孝藏、同伝藏、同平次郎、齋藤弥七、同由藏、同啓次郎、同佐兵衛、同峰松、同長作、同靖一、同慶助、同宗吉、同藤吉、同恒三郎、同恭助、同富藏、大木繁吉、同建一郎、同仙藏、伊能市朗、伊野豊吉の各氏、事務員、齋藤勲氏、以上の皆さんの名前及び大正五年十一月建立、等と刻まれています。

この碑の文字揮毫の由来等について齋藤勲氏は「この耕地整理は横芝、松尾、蓮沼等五ヶ町村に及ぶ大規模なもので農林省や内務省でも相当力を入れていた。そうしたことから当時の郡長（大正の初めまで郡単位に郡役所という行政庁が設けられていました）が頼んでくれたと思う。工事の着工は明治四十五年であったこと、事務所は市原貞助氏宅（当主文夫氏）に



あったが換地作業になってからは押尾真澄氏（元横芝町収入役、町長等数期勤められた町の名士）宅にあった」等と説明をしてくれました。

明治の末に着工し、大正の初期に竣工、その間にはいろいろな障害もあったことと思います。これを排除しながら苦勞を続け、豊かな耕地の基を築いた人々が、日本の歴史にも名を残す大政治家の若槻さんと一つ石の脊腹にその名を刻まれ、後世に伝承されることを想う時、苧り穫られた田圃の中で、ひとりたえずむ様に見えるこの碑にも無限の息吹きを感じるのでした。

写真は、その碑です。（苔むして読みとれない文字もあり、或は誤った書き写しや脱漏があるかも知れないことをお断りさせていただきます。）

（このシリーズの十一鳥喰沼開墾の碑及び本紙ふる里の散歩路等で「沼の中央を貫く道路の俗称をいろ川道路の由来を色川という技師の設計」と御紹介申し上げてありますが、これは「色川という工事請負者の名称に由来する旨」沼の戸村日吉氏、上町押尾喜世治氏から御指適いただきました。御両氏にお礼を申上げると共に謹しんで訂正させていただきます。

給食センター小沢所長寄稿